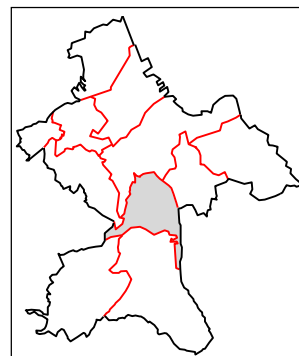


6. 是川地区

(1) 関係集落名

田中、風張、志民、妻ノ神、岩ノ沢、水野、西山、母袋子、差波、鴨平、番屋、天狗沢



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

区分	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成 22 年	151	74	77
平成 27 年	167	87	80
令和 2 年	144	61	83

※1 販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満で、かつ、調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

区分	総面積	田	畑
平成 22 年	412	116	296
平成 27 年	377	104	273
令和 2 年	370	102	268

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	経営体数	1 ha未満	1 ha以上 2 ha未満	2 ha以上 3 ha未満	3 ha以上 5 ha未満	5 ha以上
平成22年	74	39	20	6	5	4
平成27年	88	37	24	7	11	9
令和2年	61	23	20	8	7	3

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	単一経営						複合経営
		稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成22年	59	11	11	1	2	1	2	31
平成27年	72	21	26	2	2	2	3	16
令和2年	55	10	23	2	1	1	4	14

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	50万円未満	50万円以上 300万円未満	300万円以上 500万円未満	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
平成22年	59	19	29	4	4	3
平成27年	72	23	23	8	10	8
令和2年	55	10	20	8	9	8

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	59	13	4	15	6
平成 27 年	72	22	2	18	8
令和 2 年	55	16	4	15	7

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	16	5
5	11	6
2	8	3

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	23	27	18	9	14	18
平成 27 年	37	58	18	14	30	44
令和 2 年	23	41	11	17	21	24

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：経営体数 ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	12	5	9	2	7	3
平成 27 年	24	10	11	3	15	7
令和 2 年	16	8	8	2	10	6

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南部に位置し、河川に沿って水田地帯が開けていますが、起伏が多く、耕地面積の 7 割が畑となっています。

ねぎ、ながいもを基幹作物とした露地野菜栽培、トマト等の施設野菜栽培が行われています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、ねぎ、ながいも、トマト、トルコギキョウ

(5) 振興方向

ながいも、ねぎ等の露地野菜栽培を基幹としながら、施設の導入による施設野菜・花き栽培による複合経営を促進します。

水稻については、国の制度を利用しながら生産を継続します。

また、経営規模の拡大を図る農業者については、八戸平原地区の利用を促し、経営の安定と発展を図ります。

(6) 振興する農産物

水稻、ねぎ、ながいも、トマト、トルコギキョウ